

再評価結果（平成22年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：深澤 淳志

事業名：地域高規格道路 中九州横断道路 一般国道57号 大野竹田道路 起終点：自：大分県豊後大野市大野町田中 至：大分県竹田市大字会々	事業：一般国道 区分：	事業：国土交通省 主体：九州地方整備局 延長：12.3km			
事業概要：国道57号大野竹田道路は、地域高規格道路である中九州横断道路の一部を担う延長12.3kmの道路であり、交通利便性の向上や、地域間の連携・交流の支援を図るとともに、沿線地域の産業発展や地域活性化に寄与するものある。					
H18年度事業化		都市計画決定ー	H19年度用地着手	H19年度工事着手	
全体事業費	約272億円	事業進捗率	24%	供用済延長	0km
計画交通量	11,800～13,900台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.3 (残事業) 2.2	総費用 (残事業)/(事業全体) 148/253億円 (事業費：128/233億円) (維持管理費：20/20億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 322/322億円 (走行時間短縮便益：231/231億円) (走行経費減少便益：55/55億円) (交通事故減少便益：36/36億円)	基準年：平成21年	
感度分析の結果：残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=2.6 (交通量 +10%) B/C=1.8 (交通量 -10%) 事業費変動：B/C=2.0 (事業費 +10%) B/C=2.4 (事業費 -10%) 事業期間変動：B/C=2.0 (事業期間+20%) B/C=2.3 (事業期間-20%)					
事業の効果等 ①リダンダンシーの確保 ・災害に強い道路ネットワークが形成され、広域なりダンダンシーが確保 ②交通安全性の向上 ・国道57号の平均死傷事故率の減少（現況36.9件/億台和→将来5.7件/億台和） ③医療活動の支援 ・竹田市、豊後大野市から第三次救急医療施設への救急搬送を支援 ・救急医療活動のアクセス時間の短縮とアクセスが向上する人口（約23,400人、約9分） ・救急医療活動のアクセス向上便益【約3.3億円※】 ・産科・婦人科がなく不安な気持ちで出産を待っている状況（地元の声） ④地域産業の振興 ・輸送における時間コストの削減や生体の品質の確保に寄与 ⑤生活利便性や定住魅力の向上 ・沿線地域から大分市までの所要時間が短縮され日常生活における利便性や定住魅力が向上 ⑥観光産業の支援 ・観光地間のアクセス性が向上し、観光周遊の可能性の拡大および地域の観光産業の進展を支援					
※は供用後50年間の便益額として試算した値（参考値）					
関係する地方公共団体等の意見 豊後大野市をはじめとする7市5町3村で構成される中九州・地域高規格道路促進期成会（会長：竹田市長）等により早期整備の要望を受けている。（平成21年11月）					
県知事の意見： （事業継続という対応方針（案）に対し）意見等はありません。					
事業評価監視委員会の意見 審議の結果、事業継続。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 中九州横断道路（犬飼IC～大野IC）の供用に伴い、沿線地域から大分市への所要時間は短縮しているものの、医療や通勤など大分市との繋がりの強い竹田市においては依然として1時間圏域に達していない状況にある。					
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成20年度末の事業進捗率は事業費ベースで約24%であり、そのうち、用地進捗率は約70%に達している。					

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、事業効果を早期発現できるよう、用地買収および工事等の進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

- ・当面2車線整備に必要な事業費に見直し【約59億円】
- ・軟弱な地盤の層が予想以上に深いことが確認されたことによる地盤改良の増加【約6億円増】
- ・インター形式の変更に伴う減【約1.4億円】
- ・橋梁構造の比較検討及び新技術の採用によるコスト縮減【約0.6億円】
- ・用地測量等の実施による精査の結果を踏まえた見直しに伴う用地補償費の減【約4億円】

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

以上事業の効果、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。